



京都大学 東京オフィス

東京で学ぶ 京大の知

参加費
無料

シリーズ2 生きものの多様な世界

2010年10月名古屋において、世界生きもの会議（生物多様性条約第10回締約国会議；COP10）が開催されました。2010年は国連が定めた「生物多様性年」でもありました。地球上には実にさまざまな生きものがいて、それぞれがいろいろな関係で結びついています。そんな「生物の多様性」の解明を常にフィールドで追究している研究者たちが、まだあまり知られていない個性的な「生物多様性」をわかりやすくご紹介します。

2011年1月15日（土）
11:00~12:30

「人類の夢、不老不死のベニクラゲの神秘」

話し手：久保田 信

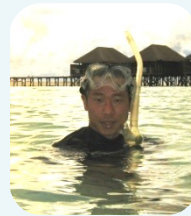
（フィールド科学教育研究センター 瀬戸臨海実験所 准教授）
現在の地球上には、41門140万種もの多細胞動物が生きてるが、みな、子供をつくると死ぬ運命にある。しかし、ベニクラゲだけは親となるクラゲの体から若いポリプ（サンゴやイソギンチャクのような姿）に繰り返し戻れる能力をもっている。神秘的なベニクラゲの不老不死の一生と、その仕組みを含む様々な生物学的特徴を、主として演者の過去35年の研究に基づいて紹介する。人類の夢をかなえるクローン動物を知って頂けるよう、映像や歌♪DVDも観て聴いて下さい。



2011年1月29日（土）
11:00~12:30

「海洋生物の行動学」

話し手：益田 玲爾
（フィールド科学教育研究センター 舞鶴水産実験所 准教授）



「魚はなぜ群れる？」「魚はどれだけ賢い？」
「魚って夜は何してるのかな？」「魚とクラゲはどちらが強い？」 潜水中に思いついたことから、魚の心理学に至るまでの話を、水中写真を中心に紹介する。これを聴けば、食卓のアジを見る目が変わるかも？

2011年2月5日（土）
11:00~12:30

「マツ枯れナラ枯れ」

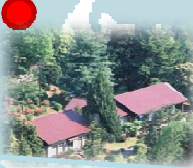
安藤 信

（フィールド科学教育研究センター 上賀茂試験地長）

70年代後半から猛威を振るったマツ枯れ、90年代以降急速に拡大したナラ枯れによって、日本の森林景観はこの30年間に大きく変化しました。その被害の実態と、防除、森林再生への取り組みについて紹介する。



舞鶴水産実験所
上賀茂試験地



瀬戸臨海実験所／白浜水族館



2011年2月12日（土）
11:00~12:30

「海洋生物の生物多様性」

話し手：白山 義久
（フィールド科学教育研究センター長 瀬戸臨海実験所長）

COP10では、「海洋生物の多様性をいかにして保全するか」が議論の中心のひとつになったが、そのためには、今の多様性がどうなっているのかを知らなければならない。80カ国2700名の科学者が10年間協力してきた結果が今年まとまったので、その詳細についてわかりやすく紹介したい。

— 申込方法 —

全4回のシリーズですが、1回のみ申し込みいただくことも可能です。

参加ご希望の方は、東京オフィスホームページから申込用紙をダウンロードし、ファックスまたはメールでお申し込み下さい。

各回定員100名とし、申し込み締め切りは12月22日（水）とさせていただきます。なお、定員を超えるお申し込みをいただいた場合は、抽選とさせていただきます。

そのほか詳しくは東京オフィス事務室までお問い合わせください。

— 開催場所・問い合わせ先 —

京都大学 東京オフィス

東京都港区港南2-15-1

品川インターシティA棟27階

TEL: 03-5479-2220

FAX: 03-5479-2221

E-mail: t-office@www.adm.kyoto-u.ac.jp

URL: <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/>

主催：京都大学 後援：朝日新聞社

